

大型事業の展開に向け 事業検証を



鳴津 宣美 議員

質問 ①新年度予算は中学生までの医療費の無料化、給食費の半額軽減、保育料の3歳以上児無料・3歳未満児半額軽減など町の財政にとっては出費の増大となる。

塩の製造等にかかる指定管理料や、生薬栽培事業、ジオパーク推進事業の検証は。

答弁 農林水産物処理加工施設は、塩、塩もろみを利用した商品開発はもとより、塩もろみを使った料理教室、ハタハタずし講習会などを開催し、特産品として認知さ

れ、水産加工業者や食肉業者に得意先が広がっている。27年度までは支援を続け、28年度以降についてはの方針を出したい。

生薬栽培は農家の経営安定を図る新たな作物として、品目の選定や種子の確保、農家栽培の普及・啓発、収穫・出荷に必要な機械などについて検討している。

ジオパーク推進協議会は場所や体制の見直しを行い、森林科学館にジオパークの機能を移し、ぶなっこだらけ全体で白神山地とジオパークを紹介し、白神ネイチャー協会や八峰町白神ガイドの会、ジオパーク推進協議会で連携・協力しながら、ぶなっこだらけ全体を運営する方向で組織の効率的運営と経費の抑制を図りたい。

質問 ②八森峰浜ふくし会の事業収益が伸び特

養の内部留保も多い、補助金の調整が必要ではないか。

答弁 自己資金については、同会が経営努力と増床時、施設の大規模な修繕など施設管理等のために積み立てていたものを全額支出しており、内部留保といわれるような多額の資金は残っていないと聞いている。

質問 ③峰浜培養への出資金は会社の資金となるもので、過疎債で交付税措置があるとはいえ、税金から出すことに対して疑問がある。関係農家やJAにも出資金を求めないのか。

答弁 峰浜培養の早期再開にあたり、原材料の購入費や人件費、燃料費等諸経費、借入金返済などの運営資金が必要なため貸付した。菌床しいたけを振興する上で農協の投資は、24年度以降だけでも発生建物26棟の建



(南)峰浜培養

設、パックセンターの建設や冷蔵施設、包装設備工事や生産農家への資金融資、手数料無しの原材料取引、しいたけ専任職員の配置など多額の投資、支援をしている。従って、貸付金を出資金に切り替えるにあたり、峰浜培養は町の第三セクターであり、町が主体的に支援するのが妥当であること、財源に過疎債を充当することで7割が交付税算入されることから判断した。

次の2点の質問もありました。
・危険建物の代執行について
・道の駅の機能充実について

小中学校における 「土曜日授業の実施」について



山本 優人 議員

質問 平成14年から毎週土曜日は休みになり、現在の完全週5日制が実施されている。25年の学校教育法施行規則の改正により、町村の教育委員会の判断で、土曜日授業の実施が可能になったが、ゆとり教育には問題があると考えている。土曜日授業の実施に向けて推進を図っていくべきでは。

答弁(教育長) 全国学力・学習状況調査の結果が示す通り、全国上位の秋田県の中においても良

い位置にあり、夏・冬休みを利用してフォローアップ事業や宿泊体験等も実施しており、その上に土曜日も授業を増やして学力向上に努める状況にはないと考えている。

また、土曜日はスポーツ少年団やクラブ活動に時間を割いているケースが多く、子供たちは毎日を忙しく送っている。

土曜日授業を行う場合は教職員の勤務条件なども課題となり、現実的に調整は困難であると考えている。

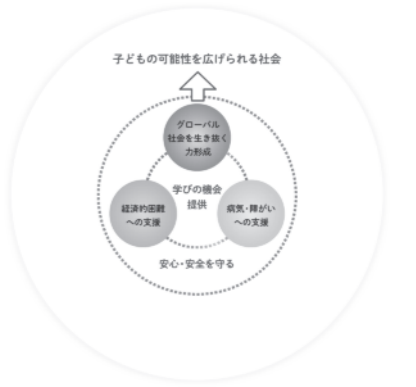
再質問 いろいろな人の考えを知るために交わる機会を教育の中で取り入れてはどうか。

答弁(教育長) コミュニティスクールや地域の人材活用を含めて今後検討したい。

質問 自治会育成支援事業補助金の交付状況はどうなっているか。町の活性化のため努力している団体やグループをどの程度把握しているか。町民が自ら提案し、行動しようとする活動の支援を考えてはどうか。

答弁 自治会育成支援事業補助金の交付状況は、現在、23団体から26

住民提案事業の 制度について



事業の申請があり、約1千万円の交付決定となっている。本年度の予算額が1千650万円であり、執行率は60・6%とやや低くなっているが、今後も引き続き自治会の活動を支援していく。

町から補助金を交付している各種団体等については把握しているが、全ては把握していない。

旧八森町時代に「まちづくりフロンティア21支援事業費補助金」制度を創設し、町民からアイデアを募集し、事業実施したが、期待した成果が得られず、2年で終了した。議員提案の住民提案型事業については前向きに検討したい。町民がいつでも、町政運営に意見、提言ができるような仕組みについても併せて検討したい。